

TOKYO2020 オリンピック聖火ランナーとして聖火をつなぐ

考える会：若林良弘



聖火ランナーに選ばれるためには、東京都やスポンサー企業が募集している応募要領に従って、1,000文字を超える地域への思いを綴る必要がありました。私は青梅市テニス協会、青梅市消防団、八王子市での聴覚障がい者との活動、おそきの学校と地域を考える会での活動など、仲間との取り組み約35年の思いを文章にして申し込み、選出されることができました。



当日は一緒に活動した仲間に見守ってもらいながら走りたいたところでしたが、トーチキスイベントで聖火をつなぐこととなりました。青梅市民で20名程度の数少ない聖火ランナーの中には元第六中学校校長の市川先生、塙水尾先生もいらっしゃいました。また、購入すると7万円する立派なトーチは、選出いただいたスポンサー企業からいただくことができ、おそき保育園の園児や第七小学校の児童にも雰囲気味わってもらえました。(若林良弘)



11月14日(日) 小曾木市民センターでイベント計画中です！ ぜひお越しください!!

おそきウインドアンサンブル青樹ミニコンサート
 演奏時間：11月14日(日) 13:30~14:00
 場所：小曾木市民センター体育館

聖火トーチ展示&持って撮影OK会
 展示時間：11月14日(日) 12:00~
 場所：小曾木市民センター体育館

駐車場はグラウンドを準備します。感染防止対策のため、体調不良の方の来場はご遠慮ください。その他、内容は検討中です。詳細は決まり次第、順次、右のQRコードアドレスに掲載します。



150年前の小曾木地区がよみがえる「宿谷家日記」解読作業

昨年5月に、小曾木4丁目の宿谷航さんの蔵から明治時代に書かれた19冊の日記が見つかりました。その当時、南小曾木村の助役や村長をされていた宿谷八郎兵衛さんが明治6年から大正2年までの毎日の出来事を書き留めたものです。

昨年10月に第七小学校が間に入り、青梅市郷土博物館にも実物を確認していただきました。現在、この日記は第七小学校の校長室に保管しています。また、今年の7月から3名の青梅市古文書解読サークルの方々に、解読作業に当たっていただいております。

一冊目の明治6年は前年の学制発布により、高德寺を南小曾木学舎として開校した年に当たります。そして再来年が開校150周年に当たる年になりますので、「このタイミングで日記が発見されたことに不思議な巡り合わせを感じる」と宿谷さんもおっしゃっております。

なお、日記を書かれた宿谷八郎兵衛さんは開校時に世話役(理事長)をされていた方です。開校した12月の記述には「学校」という言葉が度々出てきています。日記の中で開校に当たっての人々の努力や村の様子分かるような記述が出てくればいいなというわくわくするような気持ちで解読作業に当たっているところです。

(七小 古川恵一郎)



19冊の日記の確認作業

解読作業の様子